

# GAPを実践してみましょ

## 1 GAPとは

最近「GAP（ギャップ）」という言葉が耳にしませんか。GAPとは「Good Agricultural Practice」の略で、直訳すると「良い農業のやり方」のことをいいます。

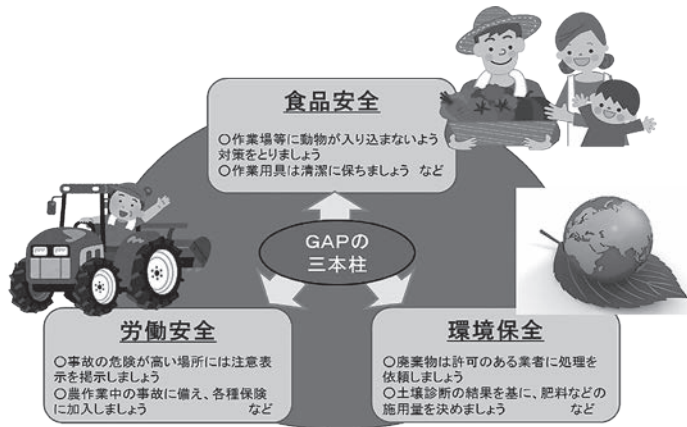
## 2 具体的にどんな内容？

GAPとは、農業に関する法律や規則、モラルを守る取り組みであり、下図のような「食品安全」、「労働安全」、「環境保全」それぞれに配慮した持続的な農業経営をすることを意味しています。

具体的に取り組みには、GAPの実践程度を評価する団体が示す規準（規範）を参考に、自身の経営をチェックして見直す作業を行います。

## 3 GAPをめぐる状況

GAPは国際的に取り組まれており、輸出の場面では国際基準を満たすことが求められ、国内においても農産



物の取引にGAP認証を受けることが要件となるようになってきています。食品の安全確保や農業経営等に有効であることから、国や県において、GAP

Pの実践を推進しているところです。  
4 S-GAPについて

埼玉県では、平成26年度にGAPの取組のさらなる普及に向けて、独自のGAP規範である「S-GAP」を策定しました。

現在、S-GAPガイドブックを配布しており、このガイドブックの内容に従って、自分の経営の状態をチェックすることでGAPに取り組めます。（ガイドブックは県農産物安全課のホームページからも確認できます。）

また、平成28年度からS-GAPの取組の到達度を客観的に評価する「S-GAP農場評価制度」を創設しました。県職員が評価を行い、判断項目が全て「適」とされた場合、「S-GAP実践農場」となります。県内の実践農場は平成30年10月10日現在、382農場となっています。

## 5 GAP実践の効果

GAPを実践した方のアンケート結果によると、「農作業事故の予防」、「食

品事故の予防」、「環境保全への貢献」、「販路の維持・拡大」等がメリットとしてあげられています。

その他、実践の効果として「作業場を整理整頓し、清潔に保つ」という項目を実践することにより、作業動線が確保され、効率よく作業ができる、モノがすぐ取り出せるなど作業の効率化や時間のムダがなくなります。

また、「農薬や肥料の使用状況を記録し保存する」という項目の実践により、資材の在庫管理ができる、事故が起こったとき使用履歴を開示することができるなど、資材のムダをなくすとともに、自分の身を守ることができます。

## 6 おわりに

GAPの実践で大事なことは「良い農業のやり方」かどうかチェックして、足りない部分に気づき、改善していくことです。

GAPの実践をお考えの方は、まず、大里農林振興センター農業支援部にお声がけください。

（大里農林振興センター 農業支援部）

